名人　松野　好成（71）　岐阜県瑞穂市
聞き手　吉田　拓真　岐阜県立郡上高等学校3年
平成18年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が選定されています。岐阜県においては、現在、23名の「森の名手・名人」がいます。
この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

伝統工芸品　柳行李（やなぎごうり）

岐阜県唯一の伝承者

▼松野好成さん

1. 生い立ち

昔は籠と柳の両方を作っとったんや。小学校のときは小さい籠を作っとった。そして中学校になってから箱の行李を作り始めた。生活がえらかったで物を作っては売ってを繰り返して物を買うために小学校のときから働いた。50年前のこの柳行李、昭和20年ころの籠でこいつからプラスチックになっていったんやな。この柳行李は丸いけど四角いものも作っとったわけよ。

昔、私んたぁはこれだけのことを小学校のときから作ってアルバイトとしてひとつ1円なり2円なりもらっとったわけ。この上は一人前の人が作らせた。私んたぁはこれが始まりでその後から大きいのになってったわけ。

2. 気持ち

作り始めたときの気持ちはおそがおそがやな。はじめから上手にできない。めんどくさいとか思ったし、嫌やなぁて思ったよ。人間やで、徐々にうまくなっていくもんやな。石の上にも三年やな。昔からのことわざで、みんな最低三年や。作り始めは小学校で籠のちっちゃい物から作っていったな。ちっちゃい物から作っていって少しずつ大きくしていったんや。小学校のときやで人間が小さいでな。大きいのって言うと長さが2メーターの幅が1メーター50くらいかな。

3. 作業 ～伝承～

穂積町は昔、柳行李と繭を作っとったわ。わしは親子三代で続けてきた。岐阜県本巣郡穂積町は水がついて米が採れなかったので農家の副業として柳つくりが始まった。

4. 作業 ～柳つくり～

12月のときに米といっしょで背くらい大きいなっとるやつをもぎ取るんやな。柳は一年間で15トン車を二台分使わなあかんし、ひと月だいたいリヤカーで三べんくらい運ばなあかん。今はだいたい一か月分で二回ずつで4キロずつ買ったけど、これだけではたらんな。あと5回か6回買わねぇと足りんわ。それを切ってまた田んぼにさす。一年にいっぺんしかない。それも今、米作るなって言うできょうこうだでみんな作っとる。米作らんと草が生えてくるやろ。そういうところに柳をさしてこいつをつくっとる。

5. 作業 ～皮むき・編み方～

柳の木は昔の米とるのと一緒で千歯こきみたいなもので棒と棒の間に柳を入れて皮を剥くと白くなる。今は脱穀機とか自動的になってきたけど昔は全部手でやってた。柳も木やでローラーとローラーとを二つ合わせてその真ん中に柳を入れるとスッと皮が剥ける。やけどローラー使うとお金がかかるわ。手で作ればお金がかからんで安く済む。私んたぁの柳も手で剥くとキレイな物ができるし機械で剥けば、こうやってローラーではさんでって剥けば早いけど、そんなもんキレイにはできん。編み方とかはあんたんたぁが着ている服とかの繊維と一緒で一本一本上と下に手であんでいくんだね。上と下と編んで繊維と一緒で右と左と合わせて編んどるわけやな。そして真四角の箱になっていくわけ。繊維は一直線に編むけど私んたぁも寸法に合わせて切ってく。あんたんたぁのズボン見ても一枚のやつをケツとか足とかで寸法で切るわけ。私んたぁもこのままやとできんで柳を切って行李をつくっとる。こうやって合わせて品物を作るように切るわけ。編んで編んで作る。今こういうのはいっくらでもダンボールであるな。注文の大きさによって編み方は違うわけね。普通の行李は昔よく使われていたやつで普通の柳行李一本に一般家庭の箪笥一竿分の品物が入るでな。だから災害や引越しの時に一番みんなつかっとったわ。保存しやすいし、手製で味があっていいわな。

製作に打ち込んでいる若い頃の松野さん

6. いいものはいい

作業は自然と覚えるしかないでな。もう体が覚えてまっとるで、一個を2時間ばかで作ら

なあかんでそりゃ早いわ。だいたい一日に3個作るんや。そやけど今は、プラスチックのものが売っとる。プラスチックは単価が安いけど、こっちは手間隙かかるで単価が高い。こっちは美術品に、プラスチックは実用品になってったわけや。柳行李は美術品として売らなしょうがない。

7. 柳行李の活躍

テレビとかやとみんなよくつかっとるな。水戸黄門とか皆つかっとる。あれみんな柳行李やよ。それで薬屋の売るやつもみんなそう。ただ小さい大きいかが違うだけや。小さい行李はお相撲さんが使わっせるやつで、ふんどしを入れておくんやな。紙を貼って完成するんやな。それでこれが踊り子さんが使わっせるやつで踊り子さんが着る着物を入れておくんやな。そのほかにお寺さんの小物入れにもなるな。お寺さんの着るものとかも入るし何でもぎょうさん入るで便利でええでしょ。ダンボールより頑丈やから上に乗っても壊れへんで。今はこういうやつは百円均一にも売っとるけどそれはおぞいやつばっかやな。この前着物屋さんから注文があったけど、どこで作っとるか分からんでって注文がなくなった。こっちは注文先は言わへんし、金額も言わずにテレビでやってくれっていう風やで、テレビとかに出ると5本か6本注文が来る。そうやけど災害があったときとかダンボールやとあかんでみんな注文来る。柳行李はだいたい今現在で岐阜県では2万円くらいで売っとるよ。これ一つ持っとけば孫三代くらいまで持つでな。頑丈ってことやな。それでハンドバックとか弁当箱とか皇太子さんが持たしたら日本中で何千万個って売れた。天皇陛下がちょっと持って歩くと何万個って売れる。今売れとるのは弁当箱くらいやな。この前の神戸地震とか新潟地震とかみんな注文来たよ。ダンボールやと押さえた場合にひしゃけるやろ。こいつは着物を入れてて、床の間とかのいくら高いとこから落としてもダンボールは壊れるけど、柳行李は高いとこに置いといても大丈夫や。プラスチックやとはげるわ。折れてまう。柳行李はひとつ買っとけば頑丈やから孫三代くらいまで持つやろ。中に入れたものもカビにくいから長持ちするな。それに折れんで災害のときは便利やわ。これは10階建てのビルから落としても大丈夫やで。飛行機から落下傘にして落としてたんやから。弁当とか入れて空から落とすんやから頑丈なもんやよ。いまはダンボールとかプラスチックは腐りやすいし、簡単にひしゃけてまうであかんでな。柳行李は風通しがええで腐らんでええわ。柳行李はいろいろな使い方があるで便利やな。

8. 柳行李の歴史

柳行李の歴史はだいぶ古いんや。柳行李は最初、中国から兵庫県に来て、そして岐阜または日本全国北海道から九州、四国みーんなに伝わって、職人が仕事ないので作ったわけ。だから一応始まりは中国やな。昔は軍隊さんがこの柳行李を使っとった。柳行李の中に服入れたり米運んだり、昔はみんなが物を運ぶときに使ってたから。今はダンボールとかプラスチックとかの石油製品が増えてきたけど、昔は材料が無かったから柳を使っとった。戦争中でも政府に納めるために作っとったな。戦争に使うために政府から注文があったから作っとったよ。昔は4月に入学するときにだいたい注文して買いよった。みんな東京に就職するとか大学に入学するとか言ってな。昔はプラスチックが無かったで。今は柳行李はプラスチックになっていったな。

プラスチックは昭和35年くらいから作られたわけ。その前は柳行李がよく使われてた。小さいやつで弁当箱くらいのものはプラスチックやけど昔は柳で作ってたんや。プラスチックの元になったのが柳行李やな。

でき上がった柳行李

9. 柳の輸入

柳がようけ採れっ年と少ない年とあるわな。そういう時はよそから買ったり売ったりしてるなぁ。最近では国産が高いので中国から輸入して入って来る。中国産は労働賃金が安い分安いからなぁ。外国のほうにも輸出しとるやろ。中国とかでも作っとるんやで。あっちの人間は柳をいっぺんに作ってまう。輸出して銭儲けやろ。中国の人は人間悪い。昔のように細くてええやつならええけど、中国では柳って木という字を使うやろ。中国から買うと材木が来るんよ。中国からやと現金で買わなかんでひっかかってまうんよ。わしんとこも中国から買ったけど、こういう細い柳ならええけど、木のような柳を送ってきてびっくりしたわ。最近10万円くらい買ったけどやられたわ。私んたぁは柳をもらったら選別してきちんと分けて、あかんやつは二等品三等品っておとさなあかんでな。

10. 柳の使い方・竹の利用

昔は5センチくらい残った柳は飴に使いよった。これやとぜんぜん怪我せぇへんもんで先端に飴をつけて子供んたぁがなめらせる。最近は柳を行李に使わずに正月のときの金とか銀とかに染められてピッとなっとる花に使っとるな。柳がないときは竹を使ったなぁ。竹も頑丈やで。その代わり値段が違って柳のほうが高い。竹でも白くなってそれで加工すれば同じや。私んたぁこの白いやつでも日常品になれば布かけて白くするんや。

11. 伝統後継者

柳行李職人は日本全国におったんや。長野県でも福井県でも、四国でもあったんや。でもぜんぜんおいて辞めてってまって残ったのは兵庫県の人と私だけになったんや。岐阜県には35の伝統工芸品があって本巣郡はだいたい3つで、柳行李とわらと菊石だけやね。菊石はもうないんやけどね。手であんま作んなれんでわらだけが残っとる。でも職人さんたぁがのおなったらもうおしまいや。伝統ってもんは跡取りがおらんかったら消えてくでな。郡上びくはまだ職人が一人や二人くらいおったよな。だから続いてくな。今度あんたがやってくれよ。そのかわり郡上の藍染と同じで寒くてえらい仕事やでなぁ。いまはぬくいでええけんど冬の寒いときに水につかってやるんやから大変やぞ。跡取りが必要なんやな。

名人　松野好成（まつのよしまさ）さんのプロフィール

- ●生年月日：昭和10年7月20日生まれ
- ●出身地：岐阜県本巣郡穂積町
- ●職　業：柳行李作り

小学校のころから父と共に柳行李を作り始めて59年間ずっと伝承している。最近では柳行李職人がいなくなり岐阜県では唯一の職人になりました。毎年宝塚などに納品をしたりしている。現在もまだ活躍しています。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
㈳岐阜県緑化推進委員会　佐藤正吉】